

JDPA

G 1043-2013

ダクティル鋳鉄製水管橋

平成25年 6月20日 改正



一般社団法人

日本ダクティル鉄管協会

表 2—G X 形水管橋の構成部品

区分	記号	構成部品
直管	D 1	F G X形直管、F G X—G X形直管、G X形直管
異形管	D F	F G X形両挿しフランジ付きT字管
接合部品	I類	F G X形テーパリング、G X形ロックリング ^{a)}
	II類	F G X形T頭ボルト・もどり止めナット、フランジ形六角ボルト・ナット ^{b)}
	III類	F G X形ゴム輪 ^{c)} 、G X形ゴム輪 ^{a)} 、G F形ガスケット ^{b)}
	IV類	G X形ロックリングホルダ ^{a)}
注 ^{a)} G X形ロックリング、ゴム輪及びロックリングホルダは、JWWA G 120・121 及び J DPA G 1049 の附属書 A (G X形ダクタイル鋳鉄管の接合部品) による。		
注 ^{b)} フランジ形六角ボルト・ナット及びG F形ガスケットは、JIS G 5527 の附属書 (ダクタイル鋳鉄管及び異形管用接合部品)、JWWA G 113・114 の附属書 A (水道用ダクタイル鋳鉄管及び異形管用接合部品) 又は JSWAS G-1 の附属書 1 (下水道用ダクタイル鋳鉄管用接合部品) による。		
注 ^{c)} F G X形ゴム輪は、JWWA G 120・121 及び J DPA G 1049 の附属書 A のG X形ゴム輪による。		

表 3—N S 形水管橋の構成部品

区分	記号	構成部品
直管	D 1	F T形直管、F T—N S形直管、N S形直管
異形管	D F	F T形両挿しフランジ付きT字管
接合部品	I類	F T形テーパリング、N S形ロックリング ^{a)}
	II類	F T形T頭ボルト・もどり止めナット、フランジ形六角ボルト・ナット ^{b)}
	III類	F T形ゴム輪 ^{c)} 、N S形ゴム輪 ^{a)} 、N S形ロックリング心出し用ゴム ^{a)} 、G F形ガスケット ^{b)}
注 ^{a)} N S形ロックリング、ゴム輪及びロックリング心出し用ゴムは、JWWA G 113・114 の附属書 A、JSWAS G-1 の附属書 1 又は J DPA G 1042 の附属書 A (N S形ダクタイル鋳鉄管及び異形管用接合部品) による。		
注 ^{b)} フランジ形六角ボルト・ナット及びG F形ガスケットは、JIS G 5527 の附属書、JWWA G 113・114 の附属書 A 又は JSWAS G-1 の附属書 1 による。		
注 ^{c)} F T形ゴム輪は、JIS G 5527 の附属書、JWWA G 113・114 の附属書 A 又は JSWAS G-1 の附属書 1 の T形ゴム輪による。		

3.3 形状、寸法及びその許容差

水管橋の形状、寸法及びその許容差は、3.4 a) によって試験を行い、次による。

- a) 形状は、表 6 及び表 12 による。
- b) 許容差は、表 4 による。

表 4—水管橋の許容差

支間長 m	許容差 mm		
	橋長	管自重時のキャンバ (管内空虚時)	軸心と水管橋中心線との ずれ量
20 以下	±50	+30 -10	±30
20 を超え 25 以下		+40 -13	±40

3.4 試験

水管橋の試験は、次による。

- a) 組立てた状態 (仮組み) で、形状の確認は、目視によって行い、寸法の測定は、適切な計測器を用いて、橋長、キャンバ及び軸心と水管橋中心線とのずれ量を測定する。
- b) 組合せ記号の表示の確認は、目視によって行う。